

# マイワシの資源変動のモニタリング

黒潮研究部

協力機関：都道府県研究機関

## 研究の背景・目的

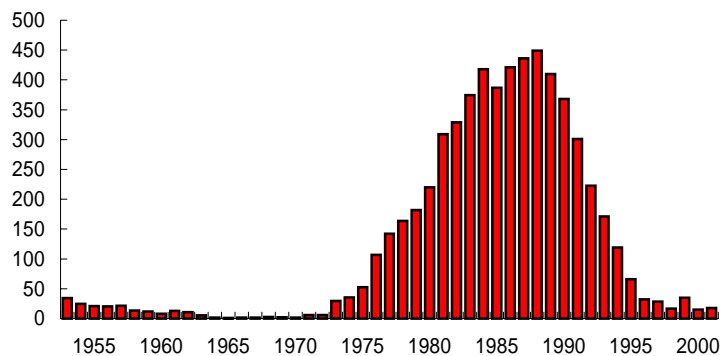
1. マイワシの漁獲量は 400 万トン台から数万トンに減少した
2. マイワシ資源はなぜ減少したのか、また、将来増えるのか？
3. マイワシ資源を回復させるためには、どのように漁獲すれば良いか？

## 研究成果

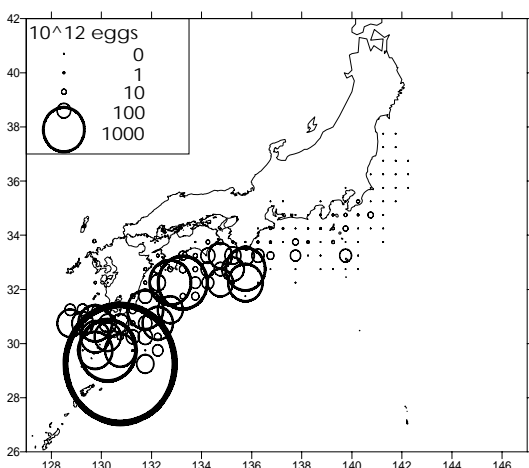
1. 近年、0 歳と 1 歳の未成魚での漁獲が多く、2 歳以上の親魚が減少している
2. 親魚の減少により、産卵量も減少し、早急な資源の回復は望めない
3. 一定量の親魚を確保することにより資源を回復させることが必要

## 波及効果

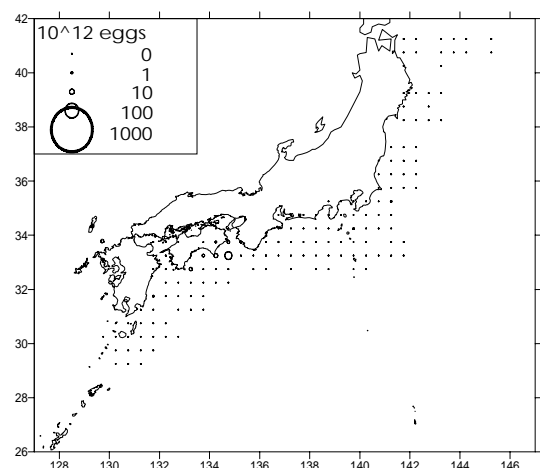
1. 漁獲可能量(TAC)制度の科学的根拠として生物学的許容漁獲量(ABC)を提案
2. 低い資源水準にあるマイワシの資源管理の手法の開発
3. 今後、産卵量調査を継続してマイワシの資源変動をモニターすることが必要



我が国のマイワシ漁獲量の年変動(万トン)



資源高水準期(1986年)の卵の分布



資源低水準期(2002年)の卵の分布